



次代へ紡ぐ匠の技

～地場産業支える「新居浜ものづくりマイスター」～

市のものづくり産業を支える卓越した技能や技術を持った人を「新居浜ものづくりマイスター」として認定しています。ものづくりマイスターは、学校での体験学習の指導や各種講座などで講義を行い、地域の優れた技能・技術の継承と次世代のものづくり産業を担う人材育成のために尽力しています。

今回は、令和元年度に認定された3人のマイスターを紹介します。今年度は11月30日(月)まで、ものづくりマイスター候補者の推薦を募集しています。応募要件や認定対象分野などは、新居浜ものづくりマイスターのホームページをご確認ください。



HPはこちら



Vol.1 野上誠一さん

(四国電気工業株式会社)

地元の化学工場のプラントが安全操業するよう、温度や流量などを監視制御する計装のメンテナンス業務を行っている。計装に関わる機器は日々進化するため、最新機器はもちろん、古い機器の知識も欠かせない。

「もっと若い人たちにもこの分野への関心を持ってもらいたい」との思いから、社外に出て、地元企業の研修講師も意欲的に務める。計装という特殊な分野を極めるべく、新たな技能や資格の取得へ研さんに励む毎日だ。

Vol.2 近藤託也さん

(愛媛小林製薬株式会社)

マスク、生理用品など紙や不織布を使った商品を製造する同社。商品を生み出す工場で、設備の改造や生産性を向上させるための改良を担当している。

紙や不織布は湿度や温度など周りの環境の変化に左右されやすく、少しの静電気ですら注意が必要。そういった問題点を解決に導き、商品を世に送り出している。「街のスーパーやドラッグストアでうちの商品を手に入れている人を見ると嬉しい」



Vol.3 山本誠二さん

(新居浜福助株式会社)

樹脂を熱で溶かし、金型から風船のように膨らませて筒状のシートを作る「インフレーション成形」のエキスパート。シートは加工するとレジ袋などになる。

何万枚と作られるシートの厚みを一定に保ち、より難しい色物を完璧に仕上げるため、日々のメンテナンスを徹底。製造現場を管理し、品質管理に万全を期す。

「多くの部下が素晴らしい技術を持っている」と話す山本さん。いつか自分に続くマイスターが出ることを期待して、今日も後輩の指導に当たる。

